

年 組 名前:

【記事を先生に読んでもらうか、
自分で読んだ後に答えてください】

問1 記事見出しの部分に入る言葉は何ですか。

「^{かお}香る」 「^{はや}早くも^{しゅうかく}収穫」

問2 今年^{ことし}は例年^{れいねん}より何日^{なんにち}ほど早く^{はや}収穫^{しゅうかく}が

始まり^{はじ}ましたか。正しいもの^{ただ}に○^つを付けてください。

「^か」 3日 「^か」 4日

「^か」 7日 「^か」 10日

問3

南部町^{なんぶちようまんだわ}万沢^{まんざく}の「まるわ茶園^{ちやえん}」で、収穫^{しゅうかく}された

お茶^{ちや}の種類^{しゆるい}を書いてください。

「^か」



スマホで 一番茶を収穫する関係者 南部町万沢

AR MOVIE

香る 早くも収穫

南部でシーズン入り

山梨県内多数の茶産地の南部町で21日、一番茶の収穫が始まった。3月下旬から暖かい日が続いた影響で、例年より10日ほど早く収穫を始めたという。同日の県内は気温が上昇し、6月下旬と同月上旬の陽気となった。

同町万沢のまるわ茶園では、午前7時ごろから約10人が「やぶきた」の新芽を収穫した。園主の一瀬辰治さん(57)は「冬と春の寒暖差や、春先に雨が多く降ったことで、香り高くおいしいお茶になった」と話した。この日収穫された一番茶は同園の加工場で製茶され、22日から町内の道の駅などで販売される。

5月上旬にかけ、収穫の最盛期を迎えるという。

町産業振興課によると、今年3月下旬～4月上旬に日中の気温が高い日が多く、新芽の生育が早まった。収穫量は平年並みを見込む。

県内の最高気温は勝沼27.5度、甲府27.1度、身延・切石

26.8度、南部26.6度、河口湖21.8度などで、各地で平年を6.5～5.0度上回り、県内4地点で今年最高となった。

〈飯野柗平、藤原智希〉

(2021年4月22日付 山梨日日新聞 22面)